

▽取組事例名

ものづくり人材育成に係る各種取り組み

▽取組期間

平成18年度

▽取組概要

小学生を対象に「ものづくり体験事業」を、中学生を対象に「ものづくり体験講座」を、高校生を対象に「インターンシップ」、高専生を対象に「課題解決型インターンシップ」を各年代別に事業を行っている。また、溶接技術の向上を目指した「四国地区高校生溶接技術競技会」を関係機関と連携し実施している。

▽取組みの背景

新居浜市は、住友諸企業を中心とした製造業の集積が進んでおり、本市産業の持続的発展のためには、本市産業を支える人材の確保が根幹となっている。しかしながら、従業員の高齢化に加え、若年者の地場産業界への就職離れ、就職後の離職など、人材を確保することが難しい状況となってきている。このような中、平成23年度には、「新居浜市ものづくり産業振興センター」をオープンし、地場産業界の高度技能の伝承、若年層への基礎的技能の習得の場として活用を行っている。さらには、平成24年度から「四国地区高校生溶接技術競技会」を本市で開催し、四国内の工業系高校生の溶接技術の向上に努めており、地元企業と若手人材のマッチングにも寄与している。

▽取組みの狙い・具体的内容

(取組みの狙い)

小学生年代からそれぞれの年代にあったものづくり体験を実施することで、地場産業への興味と関心を喚起させるとともに、明確な目的意識や職業観・勤労観を持ち、高度で専門的な知識や技術を身につけたものづくり人材を地域産業界と連携し育成する。

(具体的内容)

- ①小学生向け「ものづくり体験事業」・・・ものづくり体験講座の実施
- ②中学生向け「ものづくり体験講座」・・・企業講座や企業見学の実施
- ③工業系高校生「インターンシップ」・・・
企業人講座や企業見学、実習、インターンシップ等の実施
- ④高専生向け「課題解決型インターンシップ」・・・
地場の製造企業が抱える課題を企業OBとともに、解決につなげるインターンシップを実施
- ⑤工業系高校生「四国地区高校生溶接技術競技会」・・・溶接技術向上のための競技会を開催。その取り組みの中で、地元企業の若手社員が高校生を指導している。

▽取組みを進めていくなかでの課題・問題点（苦労した点）

工業系高校生のインターンシップでは、作業内容が危険を伴うものも多く、受入企業側に受入人数に限りがあり、生徒の希望しない職種での実習も行われている。また、資格取得等の指導を行っているが、資格を取得したのちの作業内容等を経験することなく、進路決定している生徒も見られている。

☆工夫した点

地元中学校、工業系高校、機械産業協同組合、ものづくり人材育成協会、日本溶接協会検定委員会、えひめ東予産業創造センター等多くの団体との連携が重要であり、市職員がコーディネーターとして有機的な連携を深めるよう情報共有等に努めてきた。特に、中学校や高校の教諭との情報交換を密にしなければ、人材育成の目的にならないケースも見受けられる。

▽取り組みの効果

事業実施前と比べ、中学校や工業系高校の連携が強まり、学生の目的意識や職業観の醸成につながってきている。それに伴い、地場産業への就職者数の増加、就職後の離職率の低下が見られるなど、改善されてきている。

▽住民（職員）の反応・評価

事業実施前に比べ、地場産業界への就職者の増加、離職率の低下が見られており、一定の成果が出てきている。

☆取り組み効果を踏まえたフォローアップ

各種取り組みを効果的に発現させるためには、工業系高校と地場産業界との連携が不可欠であり、新居浜ものづくり人材育成協会や新居浜機械産業協同組合が中心となり、受入企業の確保、実効性あるインターンシップの実施が求められる。

☆将来的な構想のほか、他団体へのアドバイス

現在は、若年層側へのアプローチを中心に事業実施を行っているが、優秀な人材の確保のためには、地元中小企業の処遇面の改善も重要な要因であることから、そういった面についても、取り組みを進めていく必要がある。